

全戦没者追弔法会 開催にあたって（趣旨文）

テーマ：いまここからはじめる念仏者の平和運動

かつて私たちの宗門は戦争に積極的に協力しました。それは、戦争とは何たるかを知ろうとせず、また仏教徒が「殺してはならない、殺させてはならない」という仏の教えに背いた過ちでした。そのことを恥じ、1987年より全戦没者追弔法会が勤まってきました。

日本が関わったか否かを問わず、人類の起こしてきたあらゆる戦争、今まさに広がる戦火のもとで命をなくされている世界中の方々という意味が、「全」には込められています。また私たちの宗門の過ちを忘れず、あらためて教えの前に立つ思いを「法」に込めて、今年もこの法会を厳修いたします。

1987年に初めてこの法会が勤まるにあたり、古賀制二宗務総長（当時）は戦争の防止に努力すると宣言し、「日々の暮らしがそのまま平和運動であるような念仏者の生活実践に向かって、今からその歩みを始めます」と述べました。さらに私たちの宗門は、不戦決議（1995年）、非戦決議（2015年、2022年）といった声明を公表し、過ちを繰り返さない旨を表明してきました。

しかし、戦火の絶えない現況を直視する時、私たち一人ひとりが念仏者としての歩みを果たしてきたのか、実践してきたのか、はなはだ心許ないことです。まさに恥ずべきことと言わねばなりません。

そのことに思いを致し、いまここからはじめる念仏者の平和運動とは何か、あらためて私たちの足元から確認してまいります。

2024年4月